

イチャラブ 生徒会長

IOYA-LOVE the president of the student council

小説 天戸祐輝

挿絵 神保玉蘭



二次元ドリーム文庫 / PDF立ち読み版

第一章 冷たい？ それとも素直？

第二章 練習って……マジっ!!

第三章 そんなに怒らなくても……

第四章 告白されても……っ!!

第五章 なにか間違っている気が……

第六章 身体の相性でっ！

エピローグ

006

039

079

121

160

203

250

登場人物紹介

Characters



かりさか かなえ
狩坂 火苗

生徒会の副会長でもある莉惠香の親友。実は幸貴に好意を持っており、不器用に誘惑するのだが……!?



あさまき まい
朝牧 舞

おっとりとした性格で、少し大人びた美貌の少女。莉惠香と幸貴の関係は知っており、二人が進展しないことを心配している。



いとしろ りえか
糸城 莉惠香

容姿端麗で成績優秀。生徒会長でもあり、学国内で絶大の人気がある少女。許嫁の幸貴と同棲しているが、関係が進展しないことに悩んでいる。

なつくら ゆきたか
夏倉 幸貴

莉惠香の許嫁であり、現在同棲中。莉惠香とは両思いなのだが、なかなか踏み出せない。

もう我慢する必要はない。

椅子から立ち上がった彼は、目の前で恥ずかしい姿勢のまま待つてくれている彼女の前に立ち、そつと傷口のような色をしている割れ目にペニスを近づけた。

「いきまず、舞さんっ！」

「ゆ、幸貴くんが私の……いいわ。でもやさしく……やさしく……お願い……」
ゴクリ……。

唾が喉を流れていく。

相手から誘ってくれたセックスでも、やはり初めての時は緊張してしまう。だが、ここまで彼女にさせて、できなかつたでは話にならない。

幸貴はペニスを握り、グイッと彼女の淫部に亀頭を押し当てた。

ツルンツ！

「んあああつ！ そこ違う……」

切っ先が淫唇を搔き分け、舞が艶めかしい吐息をあげてくれたのも一瞬。亀頭は秘孔に当たるところか、なにもない秘粘膜を擦って腹部の方へとそれてしまった。

「も、もう一回っ」

「あ、焦らないで……、お願いゆつくり……きやふっ！」

彼女の言葉も無視し、荒々しく秘孔に挿入しようとする。

しかし、今度は淫唇に触れただけで位置がずれ、切っ先で彼女の女芽を弾いてしまった

だけだ。

「くそっ、これならっ!」

挿入できない恥ずかしさと焦りで、もう冷静ではいられない。幸貴は少しでも早く秘孔に挿入しようと、荒々しく腰を動かし、何度も年上美少女の淫唇を突き回してしまう。

「んあっ、あうっ、痛いっ……いや……乱暴にしないで幸貴くんっ!」

「えっ!」

挿入に焦り、何度も舞の淫部を亀頭で突き回していた少年は、彼女の怒ったような声でやっとなり返った。同時に、してしまった行為に罪悪感が込み上げてくる。

(俺、とんでもないことを……)

ここまで彼女に恥ずかしい姿勢をさせてしまったのに、挿入できなかったことに落ち込んでしまう。許婚との初体験なんて、本当にできないと思ってしまうほどだ。

「もう、そんなに焦らなくても……わっ、私に任せて……」

「舞さん……うっ」

彼女が指をペニスに絡めてきた刺激に、思わず腰を引き攣らせてしまう。

温かい手でペニスを握られ、やさしく肉幹を包んできた掌の感触だけで内部が痺れ、このまま彼女の手で放出してもいいとさえ思える刺激が、股間から全身に広がってくる。

「こっ、こんなことで射精なんかしたら……ダメよ、幸貴くん……」

しかし、彼の考えが分かっているように照れ笑いをした舞は、握った手でペニスを動か

し、淫唇を掻き分けながら小さな秘孔に切っ先を当ててくれた。

「こ、ここでもいいはずよ……、そのまま腰を前に動かせば、挿入できる……わ……」

一瞬声を震わせた彼女が、自分が握ったペニスを当てた部分から目をそらしながら、全身をブルブルと強張らせはじめた。

しかし、今の少年には、その反応がなにを意味しているのか分からない。初めて女の子の膣内に挿入できる興奮で、今にも暴走してしまいそうだ。

「い、入れます舞さん……くっ、くっ、くっ……」

「いつ、いいわ幸貴くん……んあああつ!? はっ、入ってくる……。熱いのが私の中に……幸貴くんがお腹の中に……っ!」

ゴムのような膣口が亀頭に被さりながらググツと広がり、ペニスが舞の膣内に挿入しはじめた瞬間。彼女が切なくも苦しそうな呻きをもらした。

だが、今の幸貴には、彼女を気づかう余裕なんてない。亀頭に感じはじめたヌルヌルとした粘膜と、被さってくる膣口の感触に、もう挿入することしか考えられない。

ジュリユ……ジュプジュプ……。

「すごいっ、舞さんの中……ヌルヌルしたのが絡まってきて……うっ」

「あくっ! くっう……うっ……んう……」

一番太い亀頭を膣内に挿入したと同時に、想像もできなかった刺激が襲ってきた。まだ先端だけだというのに、膣内の壁が亀頭部を、そして秘孔が幹の部分心地よく締



め付けてきたのだ。しかも、切っ先の方には招くように膣壁が絡まり、奥にいけばもっとう気持ちのいい空間があることを予感させてくれる。

「もう……もうゆっくりなんて無理だつ、一気に入れますっ！」

「んう……えっ!? それは待って……ゆっくりじゃないと……はくっ！」

ジュプジュプジュプ……。

彼女がとめるのも聞こえず、ペニスから伝わってくる快楽に我慢できなくなった少年は、腰を前に動かして彼女の膣内に肉幹を埋め込んでいく。

「あうううっ！ お願ひゆっくり……ゆっくり入れっ!?!」

プツッ！ ジュプジュプジュプジュプジュプッ！

「はあくううううううううう——ッ！」

感情のまま腰を動かし、亀頭がなにかを裂いた感触とともに、舞の膣内にペニスの根元まで突き入れた瞬間。彼女が苦しげな声をあげながら肢体を硬直させ、茶色の瞳から一滴の涙を零してきた。

全身の柔肌からは大量の汗が吹き出し、尖った薄赤い色の乳首は小刻みに震え、なにかとんでもない失敗をしてしまったような気がしてくる。

「舞……さん？」

長テーパーの上でM字開脚した肢体を強張らせた彼女に、ペニスを根元まで突き刺したまま呼びかける。

苦しげな呼吸を何度も繰り返しながら、茶色の瞳に涙を浮かべ、眉間にシワまで寄っている年上美少女。

見ただけで分かる。とてつもない痛みを我慢している姿だ。

もしかしたら、挿入の仕方を間違った自分が、彼女の膣内に傷でもつけてしまったのかもしれない。そんな不安が、心の中に広がってくる。

「舞さん……い、今抜くから……」

無数の髪が肉幹に絡まりながら、やさしく締め付けてくる膣内。その心地よさをもっと感じていたいと思いつながら、秘孔からペニスを引き抜こうとした瞬間。

「大丈夫……抜かなくても平気……だから……」

舞が苦しげな表情のまま、「心配しないで」と優しげな笑みを浮かべて幸貴の首に両腕を絡め、大きな峰乳を押し付けるように抱き付いてきた。

「初めて……だから……、こういうこと……したの……んッ、でももう大丈夫……続けて……いいわ……」

「初めてって……ええっ!？」

驚いた。舞は何人もの男と付き合ったことがあると噂され、性経験も当然あると思っていた美少女だ。しかも、さっきは胸奉仕や精液まで飲んでくれた。その彼女が処女だったなんて、すぐには信じられない。

だが、処女消失の痛みで肢体を硬直させ、彼を気づかかって無理やり笑みまで見せてくれ

ている今の姿を見れば、嘘ではないことが分かる。

「舞さんっ！」

ジュプッ！ ジュプッ！ ジュプジュプッ！

経験済みだと思っていた彼女が処女。しかも、自分にそれを捧げてくれたと分かった幸貴は、もう興奮を抑えられなくなってしまった。

彼女の大きな胸を鷲掴みにし、指を乳肌に喰い込ませながら揉んで、荒々しく秘孔を突きはじめてしまう。

「すごく気持ちいいっ、舞さんの膣内、最高だよっ！」

「んあッ！ はふッ！ あッ……うれしい……けどゆっくり……ッ！ 激しすぎる……んああああッ！」

もう腰をとめることができない。

舞は痛みに大人びた美貌を歪め、泣きながら笑みを浮かべて、彼をもっと感じさせようと腰まで動かしてくる。

挿入しているだけで、無数の髪がウネウネとペニスに絡み付く狭い膣内。それだけでも初体験の少年には我慢できる刺激ではないのに、もっと気持ちよくさせようとして痛みを我慢し、喘ぎながら腰まで動かしてくれている。

そんな姿に、射精を我慢している余裕が全然なくなってきた。数分前に一度出しているにもかかわらず、ペニス全体が早くも脈動して、切っ先がムズ痒くなっていく。

「舞さんの中、すごくて……いやらしい襷が絡まって……くっ」

「ひやうッ！ なんかよくなってきて……あふッ！ いいの……もつと強く……あんッ！
もつと奥まで突き刺してッ！」

たった数回のピストンで射精感が込み上げてきた幸貴には、もう彼女の声に答えている余裕もなくなってしまった。

腰を振ることしか考えられず、彼女の秘孔を突く度に頭の中が真っ白になっていく。

舞も肉体を突かれる快楽を感じはじめ、長い脚を彼の腰に巻きつかせて、ほどいた髪を振り乱しながら喘いできた。

二人しかない生徒会室には、濡れた挿入音と喘ぎ声が木霊し、否応なく幸貴を興奮させてくる。

「うあっ、くっ、もつ……もうダメだっ！ 出る……舞さんの膣内に……膣内に出ちゃいそうだよっ」

「はふッ、あッ、ひやううッ!! な……中に……ンふッ！ いいわ……私の中に射精してもッ！ 私の中を幸貴くんていっばいにして……」

膣内射精まで許してくれた年上美少女の姿に、射精感が異常なほど高まっていく。

無数の膣襷に絡まられたペニスには、ムズ痒く痺れながら彼女の胎内で一回り膨らみ、肉幹がピクピクと引き攣りながら、精液を内部に駆け登らせはじめた。

頭の中はもう射精することしか考えられなくなり、秘孔を突き上げる腰が、今まで以上

に速くなつてしまふ。

「くああつ！　舞さんつ！　舞……カブツ！」

「きゃううううッ！　胸まで……胸まで吸わないでッ、あふッ！　私ももう……きて……きてえええッ！」

目の前で大きく上下に揺れている峰乳を両手で鷲掴み、乳肌に指を喰い込ませながら左の乳芽に吸い付いた瞬間。新たな刺激を感じた舞が肢体を跳ねさせ、強烈な締め付けと髀の絡み付きでペニスを刺激してきた。

ただでさえ我慢できない膣内なのに、そんな刺激まで加えられたら、もう射精をこらえることなんて不可能だ。

ペニスは痛いほど痺れ、内部に駆け登ってくる濁液の感触に、彼女を突き上げることしか考えられなくなつていく。

腰は壊れたように前後に動き、ウネウネと絡み付く膣壁を亀頭で捲り返しながら、今までより深く秘孔を貫いた瞬間。

「くっ、もう出る……舞さんの中に、くうああああ——つ！」

「ふうはああッ！　あッあッああッ！　出して……出してえええええッ！」

びゅるるッ！　びゅぶッ……びゅぶびゅるびゅるるるッッ！

「はふううううッ!?　出てる……熱いのが出てる……私の中に……幸貴くんがいつぱい……いつぱい……いいいいいい——ッッッ！」

肉幹の内部に塊のような濁液が駆け登り、痛いほど痺れた亀頭から、年上美少女の膣内に大量の精液が飛び散ってしまった。

彼の精液を注がれた彼女も、その熱さと壁に絡まる粘液の感触で絶頂し、上半身を弓なりに仰け反らせながら歓喜の声をあげている。

汗にまみれた肢体は、艶めかしく光りながら痙攣硬直を繰り返し、弾けそうな乳首を二つともフルフルと震わせて、初体験で絶頂したことを伝えてきた。

「くうああっ！ くっ……はああああ……これがセックス……すぐよくて……」

初めてのセックスで、しかも膣内射精までしてしまった少年は、自然と腰を前後に動かしながら、柔らかな肢体に体重を預けはじめた。

同じように絶頂した舞も、幸貴に押し倒されるように長テーブルの上で仰向けになり、彼を震える肢体に乗せたまま、長い絶頂を繰り返している。

「んあッ……あッ……っッ！ はああああ……幸貴……くん……」

男より長く続く絶頂を終え、秘孔からプシュッと愛液を噴き出した舞が、潤んだ瞳で肢体の上に乗っている彼を見つめてきた。

しかし、そんなうれしそうな瞳で見られても、彼女になにを言っただけがいいのか分からない。

処女を捧げてまでセックスを教えてくれた年上の美少女に、しかもこんな状況で「ありがとう」なんてセリフは、あまりにも思いやりがなさすぎる。

プシュッ！ プシュウウウウウウウウウウウウウウッ！

床で悶えていた莉恵香が、突然肢体を硬直させて震わせ、秘孔から大量の愛液を噴き出しはじめた。

どうやら、自分でも気づかないうちに絶頂してしまつたみたいだ。

床には秘孔から噴き出した愛液が溜まり、池のように広がっている。

「ふうああ……ああ……」

絶頂を終わらせ、息を乱している許婚の前に、一人取り残されてしまつた幸貴は、ズボンの中の切っ先を上下させながら見ていることしかできない。

ローターでイッた彼女の姿が、あまりに妖絶すぎるのだ。

「が……んっ、はあはあ……我慢し……て……ゆたくん……んっ、毎日こ……これを入れて……、必ずできるように……なつてあげる……から……」

床の上で絶頂を終わらせた彼女が、半分トロけた表情のまま、ズボンの中の勃起を見て話しかけてきた。

そんな彼女を見ながら、幸貴は「ああ……」と答えるのが精いっぱいだった。

※

莉恵香のお尻の孔に数珠つなぎローターを挿入してから、すでに三日ほど経っているのだが、あれからまったく彼女に触れてない。

ある意味、浮気で怒られていた時よりも、はるかに辛い状態だ。

(これは、地獄だな……)

まだ午前中の廊下を、生徒会長と一緒に歩きながら、そんなことを考えてしまう。

すれ違う女子の姿を見る度に、そのスカートから出ている太腿に目がいき、今にも過敏になった股間が反応してしまいそうだ。

初エッチを舞としてから、莉恵香・火苗と、三日連続で処女とエッチしたあとの、同じ日数の禁欲生活。

一番シたい時期になにもできないお陰で、溜まりに溜まった欲求が、今にも爆発してしまいそうだ。

(それに、毎日あんな姿見せられたら……)

隣を歩く生徒会長を見て、そんなことを思ってしまう。

頬を染めながら内股で歩き、青い瞳を潤ませている彼女。

あれから三日、毎朝自分で数珠ローターをお尻に挿入して生活しているのだ。しかも、幸貴はそのリモコンを持ち、いつでも彼女を喘がせることができる。そのため、この数日で、何回も彼女がお尻で絶頂する姿を見ているのだ。

いい加減、我慢の限界である。

「な、夏倉くん。もつとゆっくり……ん……歩いて……くれないかしら」

「あっ、そうか、悪い」

彼女を置いて先を歩いてしまった幸貴は、素直にあやまった。



早く歩いていっているつもりはないが、今の莉恵香はお尻にローターを挿入している所為で、歩く速度が異常なほど遅い。

彼女の速度を考えずに歩いてしまえば、あつという間に距離が離れてしまうほどだ。

「そんなに辛いなら、トイレに行つて抜けば……」

「どういうことですか、糸城生徒会長っ！ このわたくしが設立させた紅茶部に、まったく予算を出さないなんて、神に唾するような行為ですわっ！」

熱でもあるように美貌を赤く染め、今にもうすぐまりそうな許婚を心配した幸貴が、トイレでローターを抜くように言おうとした瞬間。

気の強そうな長い金髪ツインテールの女子が、部費予算の書類を持ちながら莉恵香に詰め寄ってきた。

「ちよつと待てつて。今莉恵……じゃない、生徒会長は具合が悪く……」

「そんなこと知りませんわっ。それに、わたくしが話しかけたのは糸城生徒会長ですよ。くさくて下品で汚らしい低脳なおサルさんは、黙っていて欲しいものですわっ！」

(ひどい言われようだ……)

生徒会長の状態を考え、詰め寄ってきた女子の対応をしようとしたのだが、あっけなく撃退されてしまった。

詰め寄ってきた女子が誰なのか、冷静に考えればよかった。

彼女は、この学園では莉恵香や舞、そして火苗と並ぶ美少女で、ティーンズ雑誌のモデ

ルのようなプロポーションを持つ女子だ。

本来なら、その容姿からかなりの人気があつていいはずなのだが。性格に問題がありすぎる。

「答えなさい生徒会長つ。どうしてわたくしの部に、予算が出ないんですのつ！」

「よ……んつ……予算つて言われ……ても。あなたの部は正式……な部活じゃなくて、勝手に設立させた……」

「それがどうしたんですの？ 一応、学園内の土地に部室があるのだから、部費を出すのは当然ではなくてっ！」

言っていることがむちゃくちゃだ。

確かに学園内の土地に、紅茶部という部室、ではなく館が存在しているが。それは学園一のお金持ちである彼女が勝手に建てたものだ。

そんなところに、部費が出るわけがない。

「認められないものは……みと、認められないわ。それに……紅茶を買うのに……一千万なんて金額……んんつ。はあはあはあ……」

相変わらず、この学園の生徒は金銭感覚がどうかしている。

しかし、莉恵香がかなり辛そうだ。

ローターのスイッチは入れてないが、よほどお尻の中で擦れ回るらしい。息はだんだん荒くなり、両脚がプルプルと震えだしている。

「紅茶が高いのは当然ですわっ。一級品の茶葉となれば、それなりの……って、かなり具合が悪いようですわね」

さすがに生徒会長の様子が心配になったらしい。

ツインテールの美少女は文句を言うのをやめ、莉恵香の顔を覗き込んでいる。

「具合の悪い方に、これ以上言っても仕方ありませんわね……。それに、今のわたくしは、婚約させられそうで大変ですのっ。部費のことを気にしている余裕なんて、まったくなくなっただんですわっ！」

と、生徒会長の具合を心配してかどうなのかは分からないが、言いたいことだけ言っただけ言っただけツインテール美少女が去っていく。

戻り際に「いつそのこと、メイドを連れて家出でも……」と言っていたが、彼女にかかわると、ろくなことになりそうもないので、ここは聞かなかったことにしておく。

「な、夏倉……くん……」

ツカツカと、他の生徒が道を空ける廊下を歩いていくツインテールの背中を見ていた幸貴の腕を、青い瞳を潤ませた生徒会長が掴んできた。

「も……もう……限界……、ちよつと来てっ！」

突然、お尻のことが気にならなくなったように、真っ赤な顔の彼女が腕を引っ張りながら歩きはじめた。

「お、おいつ、いきなりどうしたんだよっ」

「つて、ちよつと待て火苗。本気に……によほへっ!!」

マヌケな声が出てしまった。

いきなり床にひざまずいた火苗が、幸貴のスポンからペニスを引つ張り出し、舌を絡めながらしゃぶりついてきたのだ。

しかも、彼を興奮させようとスカートまで捲り、白と緑のハイレグ気味の縞模様ショーツに右手まで差し込んで、淫部を擦っている姿まで見せてくる。

見せられているオナニーフェラで、ペニスはあつという間に、彼女の温かい口の中で勃起させられていく。

「んあっ……んっ、んっ、んチュパっ! 幸貴の……もう勃ってきた……はむ……んっ、チュパっ……んんっ!」

オナニーしながらされるスポーツ美少女のフェラに、彼女の頭が股間で前後する度にペニスがジンジンとしてくる。

舌を這わされる肉幹や亀頭は、痒くもくすぐったい刺激で包まれ、今にも彼女のショートカットの頭を押さえて、腰を動かしてしまえそうだ。

「ちよつと火苗っ、わたしのゆたくんから離れてっ!」

「あらあら、大胆ねえ」

「んあ……んっ、んっんっんっ……ふあむ……チュパっ!」

莉恵香が副会長の肩を掴み、慌ててやめさせようとしているが、彼女は全然やめようと

はしない。それどころか、さらに激しくペニスに舌を絡めて吸引し、彼の股間で何度も頭を前後させてくる。

「もうっ、ゆたくんから離れてくれないなら、わたしだつてっ。ふあむっ！」

「うおおおっ!!」

退かそうとしても動かず、まるで自分のモノのようにフェラを続ける火苗に、許婚が対抗心を燃やしはじめた。

ボタンを数個弾き飛ばしてブレザーとブラウスの前を開いた生徒会長は、ブラから零れたお椀型の双美乳を、自分で揉みながら彼の前にひざまずき、副会長から奪い戻すようにペニスに舌を這わせてくる。

「んふあ……んちゅ……退きなさいよ火苗……わたしが先っぽを……んふあっ……」

「邪魔しないでよ……これはあたしが気持ちよく……んちゅっ、んんっ……」

ちゅパツ！ ちゅるる……ちゅパちゅるくちゅ……。

「うわ……、気持ちいい……すぐに出ちゃいそうだっ」

金髪美少女とスポーツ美少女が口淫する音が、競うように大きくなっていく。そのあまりにも熱心な奉仕に、思わず声が出してしまった。

その言葉を二人が聞き逃すはずはない。

彼女たちは同時に亀頭に舌を絡め、左右から二つの唇で挟み込むようにしながら、肉幹全体に唾液をまぶしてくる。

「どお、ゆらくん……んっんっ、わふあしが一番気持ちいいれしよ……んちゅぱっ！」
「あらしでふよ幸貴……あらしの方が気持ちいいれしよ……ちゆるるっ！」

取り合っているにもかかわらず、まるで最初から申し合わせていたような奉仕だ。

亀頭を交互に含んでは、肉幹を横啜えにして舌を這わせてくるWフェラに、目が彼女たちの口元から離れなくなってしまう。

「二人ばかり見てないで、わたしも見て、幸貴くん」

ペニスを奉仕する二人に先を越された舞が、莉恵香と同じようにブレザーとブラウスの前を広げて、紫レースのセクシーブラに包まれた峰乳を見せてきた。

薄いレース布には、すでに勃っている薄赤い乳首が透けて見え、思わず一番大きな肉果実に目を奪われてしまう。

「好きにしているわよ、ゆ・き・た・か・ク……ひゃふっ!!」

と言いながら、年上美少女がレースブラをずらして、彼の両手を自分の峰乳に導いた。

両手には、さわっているだけで掌が包み込まれてしまいそうな柔らかさが伝わり、初体験の時の興奮を思い出させてくる。

「ひゃんっ、幸貴くん……胸の採み方が上手くなって……はあはあ、おっぱいだけで立っ
ていられなくなりそうっ！」

どうやら、火苗のフェラに一番対抗心を燃やしていたのは舞だったらしい。

いきなり採ませてきた大きな柔房を顔に押し付け、薄赤い頂を交互に彼の口に入れて、



吐息をもらしはじめた。

艶めかしい声で悶え、長い栗色の髪を振り乱す年上美少女は、「強く吸って」と言っているような表情で瞳を潤ませ、両手で幸貴の頭を峰乳に埋め込んでいく。

「はあんっ……幸貴くんが私のおっぱいに顔まで埋めて、んん……そんなに乳首吸ったら取れちゃうわよ……あんっ」

「んぶっ……、自分から押し付けてくるせに……なにを言ってるっ!!」

舞がわざとらしく喘ぎ、囁くように言った言葉の意味が幸貴には理解できなかった。しかし、ペニスを奉仕する二人は、すぐにその言葉の意味が理解できたらしい。

「らめゆらくんっ、舞お姉ふあんよりわたふいを見て……んちゅぱっ、わたしをもつる見てえ……ちゆるるっ!!」

「舞先ふあいズルイっ……そんなおつきな胸れ誘惑ふるらんれ、見れ幸貴……あたひのお尻も、口も……全ふ幸貴のもろならから……んんっ、んっ、んっ、んふううっ!!」

一番大きな胸で、少年の心を独占しようとした年上美少女に、対抗心を燃やした二人が同時に亀頭にしゃぶりつき、肉幹を扱きながらエラ裏と先割れに舌先を這わせた。

しかも火苗は縞ショーツに包まれたお尻を振りながら淫部を擦る指を速め、莉恵香はお椀型の形が歪むほど自分で揉み、激しく自慰をする姿を見せてくる。

「うおおっ!! ちよっと待って! さすがにこれは我慢ができません……」

大きな胸に顔を埋めさせられながら、二人の口でフェラチオされたペニスに異常なほど

ムズ痒くなってきた。

学園でも有名な美少女三人が、同時に奉仕してくる刺激。視覚的にも肉体的にも興奮させられた少年には、もう我慢できる刺激ではない。

ペニスは全体が脈動しながら引き攣り、肉幹の内部に尿意にも似た感覚が走っていく。
(ヤバッ！ このままじゃ、すぐに射精させられそうだ……)

「ちよっ、ちよっと待って……くっ。ほんとにヤバ……うおっ、出る……で……くうっ、一度離れ……くあああああっ！」

舞の峰乳から埋めていた顔を出し、ペニスの刺激をこらえながらフェラしている彼女たちに頼む。が、あまりに気持ちよすぎて、言葉にならない。

このまま、三人の美少女の奉仕に身を任せていたい気持ちもあるが、あっという間に射精させられたのでは情けなさすぎる。

「いいよ、射精しても……ンちゅぱっ……ゆたくんろ精液なら……んっんっ……全部飲んれあへる……ンちゅぱっ！」

「うん……ふうは……いつ射精しれも……あたしたちが全部飲んれあげるから……気にひらいれ……んっんっ……」

奪い合いの真っ最中の生徒会長と副会長は、まったくやめようとしなない。

それどころか、どっちが射精を口で受け止めるかを争って亀頭を含み、舌先で鈴口を責めてきた。

肉幹にはもう射精感が走り回り、腰が自然と前後に動いてしまう。

「うっ……ヤバいつて、本当にっ……」

舞の峰乳の谷間に顔を埋めなおし、大きな肉果実に指を喰い込ませながら、歯を食いしばって耐える。

「んっ、射精すればいいのに……ふっ、二人ともいって言うてるんだから、私のおっぱい揉みながら、莉恵香と火苗の口にいっぱい出しちゃえば……あんっ」

揉まれている峰乳の刺激に、大人びた美少女が艶めかしい吐息を繰り返しながら囁いてきた。

「で、でも……くっ、まだ入れてもないのに射精したら、男として……うおっ!？」

半ば強引に三人の美少女に奉仕されているだけでも恰好が悪いのに、これ以上情けない姿は見せたくない。

それが分かった年上の彼女は、優しげな笑みを浮かべながら茶色の瞳を潤ませ。

「そうだったの。私たちの中に挿入したかったのね。なら、そう言ってくればいいのに……」

なにをどう勘違いしたか分からない。

だが、幸貴が膣に挿入したいと思っただ舞が、いきなり顔から大きな胸を離してスカートの手に手を差し込み、紫の紐レスショーツを脱ごうとしている。

「ちよちよちよっ、違う舞さんっ! 入れたいんじゃないけど、というわけでもないけど、

このままじゃ情けないって意味で……」

もう自分でもなにを言っているのか分からなくなってしまうた。

彼女たちの膣内には挿入したいが、べつに「挿入させてくれ」と頼んだつもりはない。というよりも、許婚の前でそんなことを言えるはずもない。

「でも幸貴くん、早くオ・マ・○・コ・に、大きくなったソレを入れたいんでしょ」

スカートを捲り、愛液で濡れはじめた紐ショーツを見せながら、卑猥な言葉で囁いてきた舞に、もうなにも答えられない。

しかし、二人の美少女にフェラされているペニスは簡単に反応してしまい、初体験の美少女の膣内を思い出して、先液をトロリと垂らしてしまった。

(ダメだっ、これ以上我慢したら、爆発しちゃうよっ)

射精したくて、今にもペニスが発射しそうだ。

目は、薄赤い乳首をピンツと勃たせた峰乳美少女から離れず、肉幹が彼女の秘孔を求めて、紐ショーツに包まれた淫部に切っ先を向けている。

「ダメゆたくんっ、入れたいならわたしが……」

「あたしに……あたしに入れて幸貴っ！ もう……もう我慢なんかできないよっ！」

ショーツを見せて誘う舞と、挿入するなら自分だと青い瞳を向けてくる莉恵香を押し退け、フェラオナニーしていた火苗が、破るように制服のオレンジブレザーと白ブラウスの前を広げて、ストラップレスの緑ブラを外し、小ぶりの胸を見せてきた。

「あたしが一番幸貴のことが好きなんだから、一番最初にソレをつ！」

最初に奉仕をはじめた自分が、誰よりも先にペニスを受け入れなければ気が済まないよ
うだ。

上半身の肌を露わにさせたスポーツ美少女は、そのままの勢いで制服の赤いスカートの
フアスナーを下ろし、ストンと輪にして足元に落とした。

しかも、彼女はそのままオナニーフェラで濡れた緑と白の縞ショーツまで脱ぎ捨て、彼
の前で四つん這いになって引き締まったお尻を掲げてくる。

ゴクッ……。

思わず生唾を飲み込んでしまう。

大きな峰乳と紐ショーツを見せている舞も魅力的だが、胸と濡れ広がった淫部を見せな
がら四つん這いになって誘っている火苗は、興奮を抑えられない姿だ。

「きて幸貴……、あたしの中……幸貴でいっぱいにさせて……」

恥ずかしそうに誘いながら、四つん這いになっている副会長が左手で淫唇を割り広げ、
愛液を溢れ返している秘孔まで見せてきた。

「火苗、俺……」

「入れてあげなさい幸貴くん。ここに居るみんなと試しエッチして、一番気持ちよかつた
女の子の膣内に射精すればいいじゃない。そうすれば、他の子もあきらめがつくわ」

挿入を我慢しているというのに、舞が再びとんでもない提案をしてきた。しかも、「私

はあとでいいから」とばかりにウインクして、スカートを元に戻している。

「ほら幸貴くん、火苗にいつまであんな恥ずかしい恰好をさせているつもり？」

年上美少女が峰乳を押し付けられるように彼の背中を押し、まだフェラしていた許婚の元から副会長の後ろまで移動させてくれた。

「じゃ、じゃあ火苗……」

「うん……奥まで……奥まで貫いて……あたしの中にいっぱい注いで……」

もうエッチをやめられる雰囲気ではない。

幸貴の言葉に、女の子らしい口調で答えた火苗は、淫唇をさらに割り広げてヒクヒクしている秘孔を掲げてきた。

卑怯だと思いつつも、幸貴は二人の美少女の唾液まみれになったペニスを握り、その切っ先をスポーツ美少女の秘孔に押し当てていく。

「ダメゆたくん、わたしが……」

ジュプツ！ ジュプジュプジュプウウウウウウツ！

「はあくツ！ あふツ……入ってきた……幸貴の熱いのが……幸貴のがあたしのアソコに……お腹の中にツ！」

泣きそうな生徒会長の声を聞きながら、秘孔に押し当てたペニスで一気に火苗の膣内を貫き、その切っ先を子宮口に叩き付けた。

陸上をしている所為で一番きつい彼女の膣内は、挿入したと同時に膣壁と膣壁で肉幹を

強く締め付け、蠕動しながらペニス全体を刺激してくる。

「くうおっ！　すごいきつくて……奥が吸い付いてくるっ」

「ふうああッ！　幸貴のが子宮にまで……うれしい……うれしいよお……あうッ！」
パシッ、パシッ、パシッ！

一番狭く、そして膣が浅くて簡単に切っ先が子宮口に当たる秘孔に、腰が勝手に動きはじめてしまった。生徒会室には、幸貴の腹部がスポーツ美少女のお尻を叩く音が響き、彼女の唇から歓喜の声が聞こえてくる。

「んあッ！　いいッ……お腹の中がいつばいで……幸貴……幸貴ああああッ！」

他の二人に自慢するように、副会長が甲高い声で喘ぎはじめた。

スカートとショーツを脱ぎ捨て、なにも隠すものがない彼女の大事な部分は、ペニスを出し入れさせる度に秘孔が捲れ返り、尻孔がヒクヒクしているのまで見せてくる。

「あはッ！　はうッ！　あッ、あッ、はや……はやく出してッ！　はあはあ……あたしの中にいつばい……いつばい出してッ！」

四つん這いになった肢体をプルプルと震わせ、火苗が黒いショートカットを振り乱しながらお尻を左右に振ってきた。

その所為でペニスは膣内のいたるところにぶつかり、切っ先から痺れるような刺激が伝わってくる。

「うわあああッ！　腰がとまらなく……っ！　ほんとに出そうだっ」

「だっ、ダメゆたくん、火苗の中に出したらダメっ！」

「待って幸貴くんっ、私たちの身体も試してっ！」

火苗とのセックスで射精しそうになった彼をとめるように、許婚が右側から、そして舞が左側から抱き付き、張りのある柔房と大きく揺れている峰乳を顔に押し付けながら、ピントと尖っている乳芽を交互に吸わせてきた。

鼻腔を満たしてくる甘いミルクのような香りと、吹き出した汗を美乳の谷間に伝わせていく彼女たちの姿に、彼の興奮はさらに高まり、腰をさらに激しく動かして副会長の膣内を突きまくってしまう。

「くはッ！ はうッ、んううッ……激し……激しいよ幸貴……奥が痺れ……ッ！」

「ゆたくん……もつと吸って……もつとわたしの胸を吸ってっ！」

「こんなにしてるのにとまらないなんて……はあはあ……んんっ!? ダメ……乳首囁まな
いで……」

三人の美少女が、同時に濡れた声を部屋中に響かせはじめた。

莉恵香と舞のスカートの中、とうとうショーツが吸収しきれなくなった愛液が太腿を伝い、トロトロと白と紺のニーソックスに染み込んでいくのが見える。

(もう、もう我慢できないっ！)

美少女たちの淫らな姿を見せられ、狭く浅い膣に刺激されたペニスがもう限界だ。

勃起全体に何度も尿意に似た疼きが走り、肉幹の内部に濁液が駆け登っていくのが分か

この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行

株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル

TEL03-3555-3431 (販売) / FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

<http://ktcom.jp/>

あとみっく文庫最新刊

ちょっと大人のライトノベル / 毎月下旬ぞくぞく刊行中!! 定価/690円(税込)



「当方Mドレイ希望」
魔界最強のプリンセスがドレイ志願!?



全国書店で
好評発売中

不死の吸血姫がドSのご主人様を募集
しているようです
【小説：酒井 / 挿絵：にの子】

思春期なアダム3

二人泣きの子猫

【小説：さか傘 / 挿絵：天海雪乃】

全国書店で
好評発売中



「…藤田君は責任取るべき」

睦月への想いに身を焦がすマキナ
彼女は夜の教室で……!?

借金お嬢クリス3

令嬢はいかにして
42兆円を返済したか?

【小説：筑摩十幸 / 挿絵：了藤誠仁】



全国書店で
好評発売中

「愛するシクレット様のため、
死んでも構いませんわー!」



既刊LINEUP

全国書店で好評発売中

- 仙窟守聖戦姫 / ノナガツ ①～③
- 拘束 / 帝都少女探偵団 赤い探路を駆て!
- BLANGEL 輪になって踊る悪者の夜

- 借金お嬢クリス ①～②
- プリンセスリバーシ!! 交錯する美姫と魔姫
- 無敵の姫騎士がMMに目覚めたようです

- ビルクリムメイデン ①～②
- 呪詛喰らい師【コースイーター】
- 魔界少女ルルイ・エルル

キルタイムコミュニケーション オフィシャルサイト

<http://ktcom.jp/>

- ◎雑誌、コミック、小説の**通信販売**もやってるよ!
- ◎二次元ドリームマガジン・コミックアンリアル**のバックナンバー**も買えるよ!
- ◎**ジャンル別**で作品も選べて超便利!
来かねる場合がございます。お問い合わせは、
メールでもお手数ですが再度お問い合わせください。
- ◎二次元編集部**の愉快的Blog**も更新中!

VALKYRIE



<http://www.comic-alkyrie.com/>

cranberry



<http://www.cran-berry.com/>

mille-feuille
ミルフィーユ



<http://www.mille-feuille.jp/>

**モバイル二次元
ドリーム**



<http://www.2d-dream.jp/>



KTCの戦うヒロインオンリー漫画雑誌! 18禁ではないからこそ表現できるドキドキがある!!

二次元ドリームノベルズがアニメにも進出! 新生ブランド・クランベリーをよろしく!!

二次元ドリームノベルズから生まれた美少女ゲーム! 「ミルフィーユ」ブランドにて続々登場!

二次元ドリームノベルズが携帯電話で読める! 携帯サイト限定の書き下ろし小説もあるよ!